

健康ひとロメモ

加齢黄斑変性症について

油井眼科医院

油井 秀夫



まずは、眼の構造について簡単に説明しましょう。眼に入った光は、「角膜」「瞳孔」「水晶体」「硝子体」を通過して「網膜」の上に像を結びます。その情報が「視神経」を通じて「脳」に伝えられ、最終的に映像として認識されます。眼の働きはしばしばカメラに例えられ、水晶体はレンズ、網膜はフィルムの仕事をしています。

病名にある黄斑というのは、網膜の中でも視力をつかさどる重要な細胞が集中している中心部で、物の形や大きさ、色などを認識するのに大事な場所です。この部分に異常が発生すると、見たい部分がぼやける視力低下、見たい部分がゆがんで見える変視症、見たい部分が黒く見える中心暗点といった症状が現れます。

加齢黄斑変性症は、年を重ねると誰にでも発症する可能性のある病気です。男性に多かったり、太陽光や肥満などもリスクとなります。また、この病気では喫煙も重要な原因と考えられていて、喫煙者は禁煙者に比べて4〜5倍の発症率といわれています。

昔はこの病気の治療が難しく高齢者失明原因の1つになっていきましたが、現在では硝子体注射という治療が多く行われていて、病気の進行を食い止めて視力の維持改善に有効です。とはいえ、加齢黄斑変性症はできるだけ早く治療を始めて症状の進行を食い止めるのがとても大切な病気です。

私たちは物を見るときに両方の眼で見えていますから、片方の眼に軽い異常があってもなかなか気づかないことがあります。ですから、見づらいか？と思ったら、片方の眼をふさいでもう片方の眼だけで新聞や本を読んでもみましょう。もしどちらかの眼がゆがんで見えたり、暗くて読みにくかったら要注意です。

日常生活で、人は外界からの情報の8割を「見る」ことで得るといわれています。そんな大事な眼だからこそ、何か異常を感じたら、きちんと眼科で調べてもらってください。

高齢者の肺炎球菌予防接種

令和2年度の市が実施する高齢者の肺炎球菌ワクチンの予防接種は、次のとおりです。

実施期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

対象者 次の①または②に該当する方で、今までに肺炎球菌のワクチンを接種していない方

- ①令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）内に65・70・75・80・85・90・95及び100歳を迎える方

誕生日を迎える前でも接種が可能です。

- ②60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓、呼吸器の障害やヒト免疫不全ウイルスにより日常生活が極度に制限される方

助成回数 1人につき1回

接種金額 自己負担額5,100円（市の助成額3,400円）

実施医療機関 市内及び宮城県内の指定医療機関

角田市及び丸森町以外の医療機関で受ける場合は予約票が必要となります。接種を受ける前に健康長寿課でお受け取りください。

お子さんの予防接種について

（予防接種とは）

病気の原因となるウイルスや菌が作り出す毒素を弱めて予防接種液（ワクチン）をつくり、これを体に接種して、その病気に対する抵抗力（免疫）をつくることを予防接種と言います。

母親からもらった病気に対する抵抗力（免疫）は生後12カ月までにほとんど自然に失われていきます。このため、この時期を過ぎるとお子さん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。この助けとなるのが予防接種です。

（接種時期）

成長と共に外出の機会や人と出会う機会が多くなり、その分病気にかかる可能性も高くなります。また、予防接種を受けるには、病気ごとにそれぞれ適した時期があります。接種対象年齢のできるだけ早い時期に受けましょう。

※接種対象年齢を過ぎた場合は任意接種となり、角田市の予約票をご使用いただくことはできませんので、ご注意ください。

※新型コロナウイルス感染症を予防するための対策も重要ですが、極端な制限によって、予防できる他の病気の危険性にさらされることを避ける必要があります。お子さんや付き添いの保護者の方については、発熱や咳などの症状がないことを確認して受診ください。

（参考）厚生労働省HP「遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診」

【問い合わせ】健康長寿課（☎62-1192）